

2017年度ミニ県大会申し合わせ事項

普及育成委員会スクール担当競技部会
本年度赤字部分が変更

1. 競技規則

日本ラグビーフットボール協会U-12 ミニラグビー平成27年改訂版競技規則に準ずる
(一部神奈川県ローカルルールを適用する。)

2. キックオフ

トライ後のリスタートのキックオフは、得点されたチームから再開する(日本協会ルールは得点したチームから再開)。

キックオフは、原則としてドロップキックにて行う(日本協会ルールでは中学年はパントキック、プレスキックが許される。)

但し、中学年において技術が未達なためドロップキックができないとレフリーが判断した場合は、プレスキックで対応をする。

3. コンバージョンキック

中学年・高学年ともコンバージョンキックを行う(日本協会ルールは中学年のコンバージョンキックなし)。

コンバージョンキックの際、キッカーは相手側チームの選手がゴールポストの下に移動する前にキックをしてもよい。相手側チームの選手はゴールポスト下に移動する間にキックの邪魔をしてはならない。キッカーがキック動作を開始してからのゴールポスト下ラインからのチャージは行ってもよい。

4. ルールの解釈について

①ゴールライン5m以内でディフェンス側が反則をした場合、レフリーは速やかにマーク地点を示す。

アタック側は、リスタートしても構わない。(ディフェンス側が5m下がるまで待つ必要はない)

②危険なプレーをした場合は、試合を中断し、注意をしてからプレーを再開する。

③ハンドオフの見解は、レフリーの判断に委ねる。

④スクラムのオフサイド解消は、ハーフがボールに触れた時点で解消される。

ハーフが足でコントロールしている場合は、解消ではない。

オフサイド解消については、レフリー判断に委ねる。

5. 選手エントリー制度

各スクール同学年において、複数チームをエントリーする場合は、別紙「選手エントリー制度運用要綱」に基づき、「選手エントリー票」を提出する。

同学年各チームの人数は、最も多いチームと最も少ないチームの差は2名を越えないように登録する。

ケガや欠席のため代理の選手を出場させる場合は、チームメンバーを全員参加させた後、なおメンバーが不足した場合のみ代理出場を認める。

代理出場は、必ず試合前のブリーフィング時に相手チームの許可を得る。

代理出場により戦力アップにならないようにする。

試合中の負傷退場等での選手交代は、エントリー以外の代理選手よりも、自チームですでに出場し交代された選手を優先させる。

やむをえず他チームの代理選手を出場させる場合は、レフリーと相手チームの許可を得る。

許可を求められたチームは、特別な理由のない場合は、承諾するものとする。

試合前の整列時に、当該チーム選手及び許可を受けた選手は全員整列する。

単独チームと合同チームをチーム登録している場合、単独チーム内であれば、代理出場を認める。

6. 優勝チームの決定について

勝ちを勝ち点 3、引き分けを勝ち点 1、負けを勝ち点 0 とし、各ブロックの勝ち点合計数の最も多いチームを優勝とする。

勝ち点合計数の最も多いチームが複数の場合は、複数チームを優勝とする。

7. 人数不足による不戦敗

人数の足りないチームが他スクールから選手を借りて試合を行った場合、試合結果の点数を記録とし県協会へ報告する。ただし、ブロック内の勝ち点の計算においては、人数の足りないチームは不戦敗とし勝ち点 0、相手チームに勝ち点 3 を与える。

8. 規定のチーム構成人数未滿による試合

1 チームの各学年の規定の人数（例えば、高学年の場合は 9 名）より少ないプレーヤーによる試合は、試合途中において怪我や病気により出場選手が規定人数—1 名（例えば、高学年の場合は 8 名）まで許可される。但し、チームは試合開始時点では規定の人数の健康な選手を揃えなければならない。

9. 試合日程の変更依頼について

試合日程発表の後は、試合日程の変更依頼は原則として受け付けない。

都合のつかない場合は、当事者チーム同士で調整する（場所、日時、レフリー等）。

調整不可の場合は、参加できないチームを不戦敗とする。

10. 各試合会場でのルール

駐車可否、試合前の練習方法、その他各会場での注意事項は厳守する。

第 1 試合開始前（後半開始前にも行う場合あり）に、全体ミーティングを行うので、各スクール学年代表指導員、グラウンド管理スクール担当者、当日のレフリー、競技委員、レフリー委員は集合する。

全体ミーティングにて注意された事項については、あとから到着する学年に責任を持って伝える。万一、全体ミーティングに遅れた場合は、大会本部席に申し出て注意事項を確認する。

11. 荷物の置き場及び忘れ物、ゴミの持ち帰りについて

荷物の置き場は、各スクール全学年同じエリアで行い、忘れ物とゴミを持ち帰る。

グラウンドを退場する最終の学年は、忘れ物とゴミをチェックして、本部に「〇〇スクール忘れ物、ゴミなし」を報告する。

12. 試合開始対応について

試合開始 2 分前にセンターラインの位置の外側（ゴールポスト下）に両チーム選手、レフリー、タッチジャッジは集合し、そろってグラウンドに入る。

13. レフリー・タッチジャッジ・選手の服装について

レフリーはレフリージャージ、タッチジャッジはレフリーに準じてふさわしい服装で対応する。
選手の服装についてアンダーウエアはOKとする。

14. レフリー判定への対応

レフリーの判定に異議を唱えることは禁止する。建設的ではない言動や進行の妨げになる場合は、レフリーはじめ競技委員・レフリー委員が注意する。従わない場合は大会役員の判断において退場を命じる場合がある。

15. キックオフの時刻

スケジュール表のスタート時刻＝キックオフの時刻とする。

16. タッチジャッジ

ブリーフィング時には、ボールとタッチジャッジ用フラッグを必ず持参すること。

17. 試合前の練習場所

A面とB面間のエリアは、次の試合の練習場所とする。

原則として、A面B面間の本部席側から横に4分割して練習スクールを決める。

同エリアは、次の試合の選手、指導員、レフリー及び競技委員、レフリー委員、グラウンド管理係以外のものは立ち入らない。

同エリアからの指導、応援は禁止する。

18. コーチ、ウォーター係、チームカメラマン

サイドコーチは、各チーム1名とし、定められた区域内から、プレーヤーに対して建設的な指示、助言を行える。

ヒステリックに怒鳴ったり、レフリーの判定に異議を唱えたりすることは禁止する。

建設的でない言動や進行の妨げになると判断した場合は、レフリーはじめ競技委員、レフリー委員が注意する、

コーチはそれに従わなければならない。

コーチは、試合中にグラウンドに入って指示することはできない（ゲーム中断時、ウォーターブレイク時を含む）。

5年・6年の試合においては、ベンチからの指示は一切禁止する。

但し、必要に応じ指示をしなければいけない状況と判断した場合は、ヘッドコーチのみ、キャプティンを呼んで指示することを例外として、コンバージョンキック中のみ認める。

指示は自陣のベンチ側とし、相手側ベンチ前には行かない。

父兄がウォーター係を行う場合は、一般の方との区別を明らかにするため指導員と同様の服装をするか、ビブスを着用する。

応援席以外で撮影を希望するチームカメラマンは、一般の方との区別を明らかにするためビブス着用やIDカードを首からさげる等でそれとわかる格好をし、事前に本部席にチームカメラマンであることを伝える。

また、チームカメラマンの立ち入り場所は、応援席とインゴール裏とし、試合や試合前練習の妨げにならないようにする。チームカメラマンは1試合につき1チーム当たり2名以下とする。タッチジャッジ及びチームカメラマンによる指示、助言は、厳禁とする。

19. セーフティーアシスタントについて

セーフティーアシスタントは、各チームで確保するように努める。

けが事故等の発生時はチーム以外のセーフティーアシスタント関係者についても対応する様

配慮する。

子供のけがに迅速に対応することを目的とし、試合中にかかわらずセーフティーアシスタントの資格を保有するコーチがグラウンドに入ってもよい。

20. ゴールポスト下について

試合中は、ゴールポスト下には選手、タッチジャッジ以外の者は誰も立ち入らない。

21. タッチライン付近について

タッチラインより、2mまでのエリアは、危険防止や、タッチジャッジのスペース確保のため、試合中はタッチジャッジ以外の者は、立ち入らない。

22. 選手交代について

選手の交代は、交代人数を制限しない。

ただし、出血やけがなどの一時交代選手がいない場合を除き一度交代した選手は原則再出場させない。

交代の際はレフリーに申告する。

一時交代の選手は、応急処置が完了次第グラウンドに戻れる。また、一時交代を前提として選手が交代する場合には、退く際にレフリーに申告し、その選手が再出場をする場合・断念する場合ともレフリーにその旨を申告する。

23. スコアカード

レフリーのスコアカードは、レフリー部会で作成された所定のものを使用する（別紙）。

レフリーは、同スコアカードに必要事項を記入、署名したのち、本部席に提出する。

スコアカードに訂正がある場合は、当該レフリーが行う。

24. 点数の確認

試合終了後、両チームのサイドコーチとレフリーは点数の確認を行い、3者承認にてスコアを決定する。

また、本部席の試合結果の掲示を確認する。

後日の点数訂正や再確認の申し出は、原則として受け付けない。

25. アフターマッチファンクション

① 試合終了後、グラウンドにて整列し互いに礼を行う、両軍ベンチ前に整列して礼を行う。

② 給水し、持ち物の忘れ物がないか確認後、アフターマッチファンクションの場所へ移動する。アフターマッチファンクションを行う場所はあらかじめ設定し、ブリーフィングを確認する。サイドコーチは、場所を移動完了するまでに点数の確認をレフリーに行う。

③ レフリーは、両チームの選手、サイドコーチがそろったことを確認して、選手を着座させる。レフリーの立ち位置は、選手から見やすいように太陽を正面に見る向きに立つのが望ましい。

以下、レフリー主導でアフターマッチファンクションを進める。

④ レフリーは、危険なプレー、好ましいプレー、ルールに対する助言などを簡潔でわかりやすく、親しみやすい言葉遣いと表情で選手に伝える。

⑤ 両チームのキャプテンは、自己紹介のあと、試合の感想を話す。

レフリー、指導員は、名前の復唱や内容について必要に応じフォローする。

⑥ 両チームのサイドコーチは、自己紹介のあと、試合の感想を話す。

特に相手チームの良かったプレーに着目して、できるだけ具体的に評価する。

⑦ 選手、指導員は、起立、整列して互いに礼をする。最後に握手をする。

26. ワールドラグビー試験的ルールの実施について（通達）

試験的ルールの実施の施行日は、以下の通りである。

- ・ 2017 年 8 月 1 日

これに伴い、2017 年度秋季交流大会以降、ミニ競技においても実施する。

アフターマッチファンクションの目的

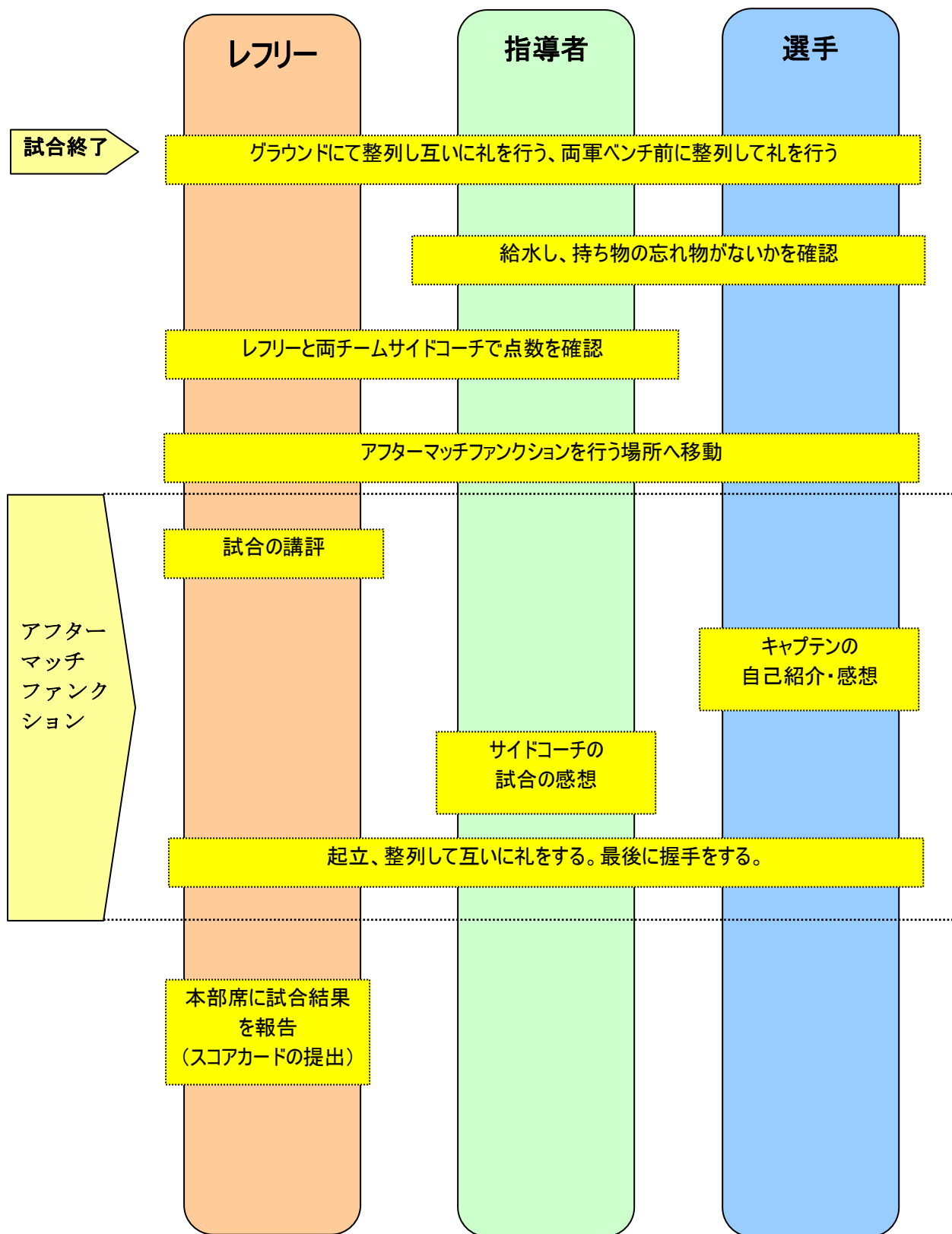
- ① 試合終了後、両チームの選手はじめ関係者が、敵味方なく相互の健闘を讃え、尊重しあい、親交を深めあうことで、ミニラグビーにおいてラグビーの「ノーサイド」精神を培う。
- ② レフリーや相手チームより、試合中のプレーの評価、指摘をもらうことで、正しくプレーするフェアプレイ精神を養い、技術レベルの向上を図る。

スクール指導者へお願い

アフターマッチファンクションの実施にあたり、「ラグビーは相手がいるからできる」という理念のもと、選手には、相手チームに感謝すること、ラグビーする仲間同士の友情を深めること、の意義などをぜひご指導ください。

また、保護者にも、相手のミスを喜ばない、良いプレーには拍手を送る、などの応援マナーについて機会あるごとに、すべての保護者にお伝えいただきたく願います。

○ 試合終了からアフターマッチファンクションへの流れ



○ 標準的なグラウンドでの立ち入り範囲

グラウンド会場によって異なりますので、グラウンド管理スクールからの案内、また当日は本部席にてご確認ください。

